

千葉県八千代市

市内遺跡等発掘調査報告書

麦丸遺跡	k地点
殿内遺跡	i地点
殿内遺跡	j地点
内込遺跡	f地点
内野遺跡	c地点
高津梅屋敷遺跡	f地点
北海道遺跡	b地点
向山遺跡	j地点
作ヶ谷津庚申塚	
小板橋遺跡	k地点
七百余所神社古墳	a地点

令和3年度

八千代市教育委員会

例 言

- 1 本書は、八千代市教育委員会が令和2年度市内遺跡等発掘調査事業として、国庫及び県費の補助を受けて実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。報告書作成作業は、令和3年度事業として行った。
- 2 調査は千葉県教育委員会の指導を受け、八千代市教育委員会が直営で実施した。
- 3 令和2年度における本事業の調査体制は以下の通りである。

調査主体者	小林 伸夫	八千代市教育委員会	教育長
	藤 茂美	八千代市教育委員会	参事
事務担当	宮澤 久史	八千代市教育委員会文化・スポーツ課	主幹（文化財担当）
	向後 喜紀	八千代市教育委員会文化・スポーツ課	主査補
調査担当	森 竜哉	八千代市教育委員会文化・スポーツ課	主任主事
	宮下 聡史	八千代市教育委員会文化・スポーツ課	主任文化財主事
	轟 直行	八千代市教育委員会文化・スポーツ課	文化財主事
- 4 整理作業は、調査時の基礎整理、資料の収集・整理を岩崎千代子、杵島由希、宇都洋子が、出土土器の拓本・実測を内田紀子、遺構・遺物のトレースを伊藤衣莉加、大友栢、遺物の写真、本文の執筆・編集を宮澤・森・向後が行った。
- 5 発掘調査により作成した遺構平面図・写真類・出土遺物等は全て八千代市教育委員会が保管している。

目 次

I 本書所載遺跡の立地と環境	1
II 発掘調査成果	3
① 麦丸遺跡 k 地点	3
② 殿内遺跡 i 地点	3
③ 殿内遺跡 j 地点	3
④ 内込遺跡 f 地点	6
⑤ 内野遺跡 c 地点	6
⑥ 高津梅屋敷遺跡 f 地点	9
⑦ 北海道遺跡 b 地点	9
⑧ 向山遺跡 j 地点	9
⑨ 作ヶ谷津庚塚	9

⑩ 小坂橋遺跡 k 地点	13
⑪ 七百余所神社古墳 a 地点	15

挿図目次

図 1 本書掲載遺跡	2
図 2 麦丸遺跡 k 地点遺構配置図等	4
図 3 殿内遺跡 i 地点・j 地点遺構配置図等	5
図 4 殿内遺跡 j 地点遺構配置図等	6
図 5 内込遺跡 f 地点遺構配置図等	7
図 6 内野遺跡 c 地点遺構配置図等	8
図 7 高津梅屋敷遺跡 f 地点遺構配置図等	10
図 8 北海道遺跡 b 地点遺構配置図等	11
図 9 向山遺跡 j 地点遺構配置図等	12
図 10 作ヶ谷津庚申塚遺構配置図等	13
図 11 小坂橋遺跡 k 地点遺構配置図等	14
図 12 七百余所神社古墳と今回の調査地点	15
図 13 七百余所神社古墳トレンチ配置図	16
図 14 七百余所神社古墳土層断面図	17
図 15 七百余所神社古墳出土遺物	18
図 16 七百余所神社古墳出土遺物 (2)	19

図版目次

- 図版1 麦丸遺跡 k 地点・殿内遺跡 i 地点
- 図版2 殿内遺跡 j 地点
- 図版3 内込遺跡 f 地点・内野遺跡 c 地点
- 図版4 高津梅屋敷遺跡 f 地点・北海道遺跡 b 地点
- 図版5 向山遺跡 j 地点・作ヶ谷津庚申塚
- 図版6 小板橋遺跡 k 地点
- 図版7 七百余所神社古墳
- 図版8 七百余所神社古墳(2)

I 本書所載遺跡の立地と環境

八千代市は都心から東へ30km、千葉市の市街地中心部から北へ約13km、千葉県北西部地域で印旛沼西岸に位置する。市域は房総半島の内陸部にあり、地形は平坦な下総台地とそれを樹枝状に開析する河川や谷津で構成されている。

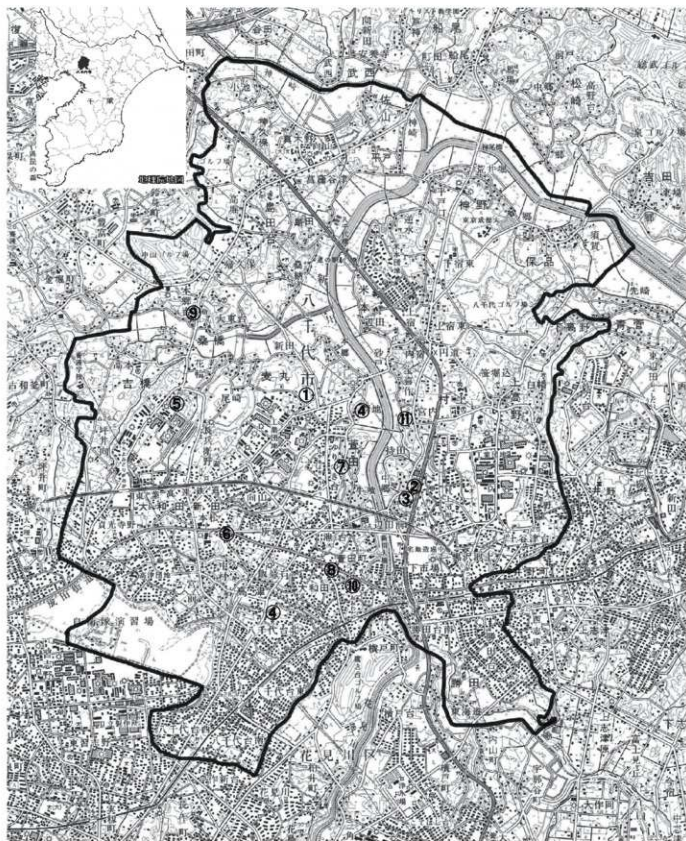
市域の下総台地は、三つの地形面で構成されている。下総上位面は大地全体に広く分布し、最も上位に位置する。下総下位面は神崎川の兩岸や新川の西岸、旧印旛沼の南岸、神崎川の南岸、桑納川の南岸、新川の西岸、高津川の南岸、勝田川の兩岸などにみられ、複数の段丘面で構成される下位の段丘面群である。

市域の中央を南北に貫く新川（印旛放水路）は、上流域では勝田川、下流域ではかつて平戸川と呼ばれており、本来、印旛沼水系に属していた。千葉市の長沼から大日一帯を水源とし、南から北に流下し、その左岸から高津川（八千代1号幹線）・桑納川・神崎川が合流し、平戸で流れを東に変え、印旛沼に流れ込む。戦後、大和田排水機場の完成と江戸時代から進められていた新川と花見川の開通により、現在は印旛沼が増水した時に湖水を東京湾に流す放水路となっている。

市内を流れる河川は、市域の大地を大きく大和田・睦・阿蘇の3つの区域に区分している。

以下、本書掲載の遺跡を説明する。

- ① 麦丸遺跡は市域中央部、北に桑納川を臨む台地上に位置する。かつて13次の確認・本調査が行われ、古墳時代竪穴建物跡等が確認されている。
- ② 殿内遺跡は市域中央部、新川を西に臨む台地上に位置する。かつて16次の確認・本調査が行われ、古墳時代竪穴建物跡、奈良・平安時代竪穴建物跡等が確認されている。
- ③ 内込跡遺は市域南部、高津川を北に臨む台地緩斜面に位置する。かつて9次の確認・本調査が行われ、古墳時代竪穴建物跡、奈良・平安時代竪穴建物跡等が確認されている。
- ④ 内野遺跡は市域西部、桑納川を北に臨む台地上平坦部に位置する。かつて2次の確認調査が行われ、遺構は確認されていなかった為、今回の調査結果が期待された。
- ⑤ 高津梅屋敷遺跡は市域南部、高津川を南に臨む台地平坦部に位置する。かつて5次における確認調査が行われ、遺構は確認されていなかった為、今回の調査結果が期待された。
- ⑥ 北海道遺跡は市域中央部、新川を東に臨む台地上平坦面に位置する。かつて3次における確認・本調査が行われ、縄文時代竪穴建物跡、古墳時代竪穴建物跡等が確認されている。
- ⑦ 向山遺跡は市域中央部、新川から延びる谷津を東に臨む緩斜面上に位置する。かつて12次における確認・本調査が行われ、縄文時代土坑等が確認されている。
- ⑧ 作ヶ谷津庚申塚は市域北西部、桑納川から来たに延びる作ヶ谷津の最奥部の台地上に位置する。今まで発掘調査が行われておらず、今回の調査結果が期待された。
- ⑨ 小坂橋遺跡は市域南部、新川を東に臨む台地平坦面上に位置する。かつて15次における確認・本調査が行われ、古墳時代竪穴建物跡等が確認されている。
- ⑩ 七百余所神社古墳は市域中央部、新川を西に臨む台地平坦面上に位置する。今まで発掘調査が行われておらず、古墳の性格が確認されていなかった為、今回の調査結果が期待された。



令和2年度市内遺跡等調査地点位置図

- ①麦丸遺跡 k 地点 ②殿内遺跡 i 地点 ③殿内遺跡 j 地点 ④内込遺跡 f 地点 ⑤内野遺跡 c 地点
 ⑥高津梅屋敷遺跡 f 地点 ⑦北海道遺跡 b 地点 ⑧向山遺跡 j 地点 ⑨作ヶ谷津庚中塚
 ⑩小板橋遺跡 k 地点 ⑪七百余所神社古墳 a 地点

図1 本書掲載遺跡

Ⅱ 発掘調査成果

① 妻丸遺跡 k 地点 (図2 図版1)

○調査概要

〔所在地〕 八千代市大和田新田妻丸台647-4 〔調査原因〕 宅地造成

〔調査期間〕 令和2年4月15日～令和2年4月23日 〔調査面積〕 上層139.576㎡/1,427㎡

〔調査種別〕 確認調査 〔遺構〕 縄文時代土坑1基 〔出土遺物〕 縄文土器。1は縄文土器深鉢銅部。色調は赤みを帯びた暗褐色。焼成良好。後期加曽利B式。

○調査所見

確認した土坑は縄文時代のものである。不整形のプラン。底面はロームでほぼ平坦。壁は緩やかに立ち上がり、下位はハードロームで上位はソフトロームである。遺構覆土からの出土遺物は無かったが、覆土の観察等から縄文時代の遺構と判断した。本調査まで実施し調査を終了した。

② 殿内遺跡 i 地点 (図3 図版1)

○調査概要

〔所在地〕 八千代市村上字大宮作1608-1, 1609-2 〔調査原因〕 店舗建設

〔調査期間〕 令和2年6月2日～令和2年6月9日 〔調査面積〕 上層112㎡/1,213.35㎡

〔調査種別〕 確認調査 〔遺構〕 なし 〔出土遺物〕 なし

○調査所見

遺構、遺物は確認できなかった。

③ 殿内遺跡 j 地点 (図4 図版2)

○調査概要

〔所在地〕 八千代市村上1580-1, 1580-3 〔調査原因〕 店舗建設

〔調査期間〕 令和2年11月16日～令和2年11月25日 〔調査面積〕 上層204.2㎡/2,049.9㎡

〔調査種別〕 確認調査 〔遺構〕 古墳時代竪穴建物跡3棟、奈良・平安時代竪穴建物跡11棟、土坑4基、溝状遺構1条、中近世土坑1基

〔出土遺物〕 縄文土器、古墳時代土師器、奈良・平安時代土師器、須恵器、中近世陶磁器。1は土師器坏。色調は外面暗褐色、内面は黒色処理される。焼成良好。輪積み痕あり。体部下位にヘラ削り調整。底部に木葉痕。奈良・平安時代。2は土師器坏。色調は暗褐色。焼成良好。輪積み痕あり。体部下位にヘラ削り調整。底部に木葉痕。奈良・平安時代。

○調査所見

確認した遺構は古墳時代、奈良・平安時代、中近世のものである。出土した遺物もそれを裏付ける。なお、令和2年度中に本調査を実施した。

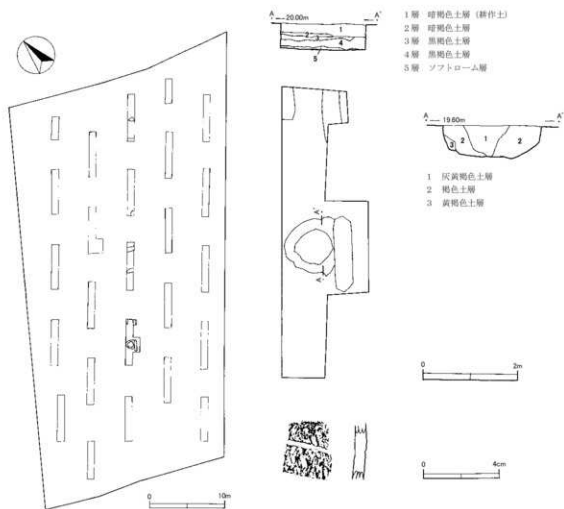
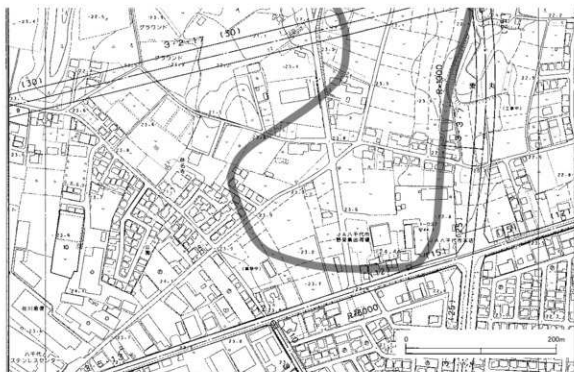


図2 麦丸遺跡k地点遺構配置図等

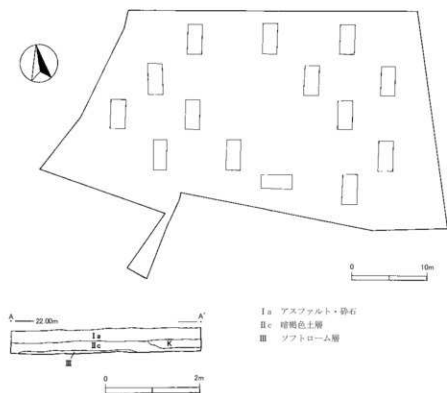
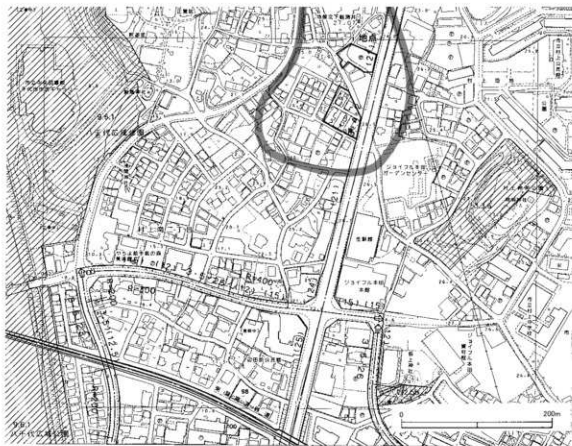


図3 殿内遺跡i地点・j地点遺構配置図等

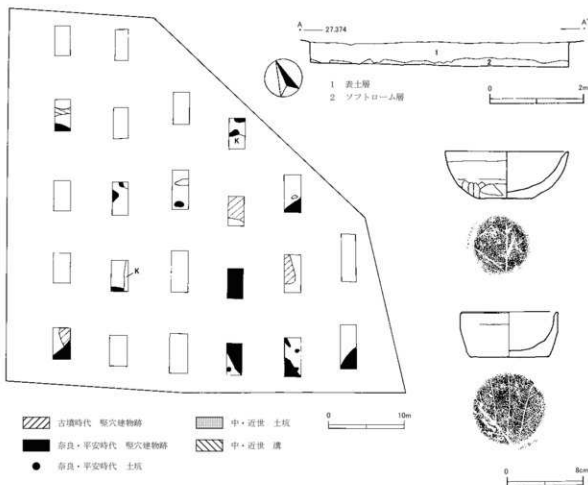


図4 殿内遺跡j 地点遺構配置図等

④ 内込遺跡f 地点 (図5 図版3)

○調査概要

【所在地】八千代市八千代台北17-1615-64 【調査原因】建売住宅

【調査期間】令和2年8月13日～令和2年8月13日 【調査面積】上層9㎡/95.56㎡

【調査種別】確認調査 【遺構】古墳時代後期竪穴建物跡1棟 【出土遺物】なし

○調査所見

確認した遺構は古墳時代のものである。遺物は確認できなかった。

⑤ 内野遺跡c 地点 (図6 図版3)

○調査概要

【所在地】八千代市吉橋字八幡前1167-1, 1167-14, 1171-2

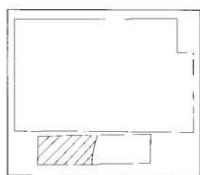
【調査原因】宅地造成 【調査期間】令和2年8月19日～令和2年8月25日

【調査面積】上層368㎡/3,490㎡ 【調査種別】確認調査

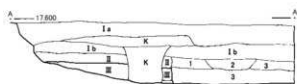
【遺構】なし 【出土遺物】なし

○調査所見

全域にわたり盛土が著しく、各トレンチ150cm以上の掘削をするも地山の検出に至らず、安全管理上の配慮からセクション図の作成は断念し埋め戻した。遺構、遺物は確認できなかった。



0 4m  古墳時代 聚穴建物跡



- Ia 整地層
- Ib 耕作土
- II 暗褐色土層
- III ソフトローム層
- 1 暗褐色土層
- 2 暗褐色土層
- 3 暗褐色土層



図5 内込遺跡f地点遺構配置図等

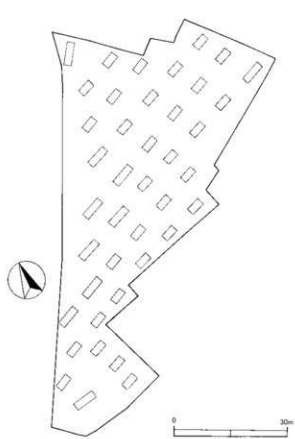
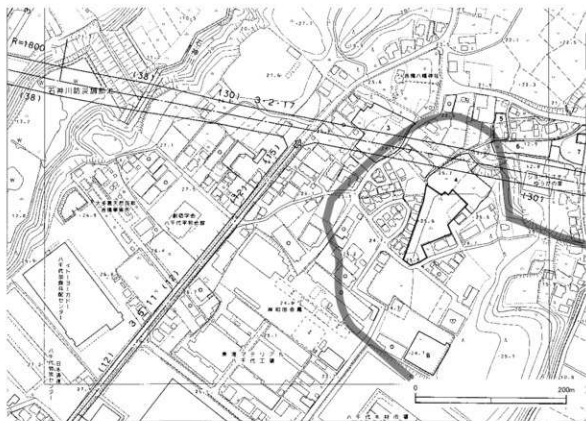


図6 内野遺跡c地点遺構配置図等

⑥ 高津梅屋敷遺跡 f 地点 (図7 図版4)

○調査概要

【所在地】 八千代市大和田新田字新木戸前103-5, 103-7, 103-18, 103-19, 103-20, 103-36, 103-64

【調査原因】 スポーツ練習場新築 【調査期間】 令和2年10月12日～令和2年10月23日

【調査面積】 上層284㎡/3,015.71㎡ 【調査種別】 確認調査

【遺構】 なし 【出土遺物】 縄文土器, 奈良・平安時代土師器

○調査所見

遺構は確認できなかったが、縄文土器、奈良・平安時代土師器を確認した。1は縄文土器、浅鉢胴部片。色調は褐色。焼成は良好。平行沈線による区画内を波状文で充填する。前期浮島Ⅰ式。

⑦ 北海道遺跡 b 地点 (図8 図版4)

○調査概要

【所在地】 八千代市萱田字南海道1091-1

【調査原因】 集合住宅 【調査期間】 令和2年10月20日～令和2年10月20日

【調査面積】 上層20㎡/196㎡ 【調査種別】 確認調査

【遺構】 なし 【出土遺物】 なし

○調査所見

遺構、遺物は確認できなかった。

⑧ 向山遺跡 j 地点 (図9 図版5)

○調査概要

【所在地】 八千代市大和田新田510-1

【調査原因】 宅地造成 【調査期間】 令和2年12月4日～令和2年12月18日

【調査面積】 上層422㎡/4,800㎡ 【調査種別】 確認調査

【遺構】 なし 【出土遺物】 縄文土器, 奈良・平安時代土師器, 中近世土器

○調査所見

遺構は確認できなかったが、縄文土器、奈良・平安時代土師器、中近世土器を確認した。1は縄文土器深鉢口縁部片。色調は暗褐色。焼成は良好。爪形文に羽状変形縄文を施す。前期黒浜式。2は縄文土器深鉢底部付近。色調は暗褐色。焼成は良好。羽状変形縄文を施す。前期黒浜式。3は縄文土器深鉢口縁部片。色調は褐色。焼成は良好。胎土に少量の雲母を含む。隆帯に沿って2条の押し引き文を施し、さらに押し引きによる3条の懸垂文を施す。阿玉台Ⅱ式。

⑨ 作ヶ谷津庚申塚 (図10 図版5)

○調査概要

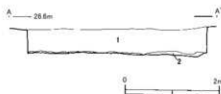
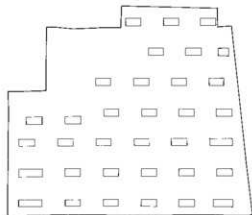
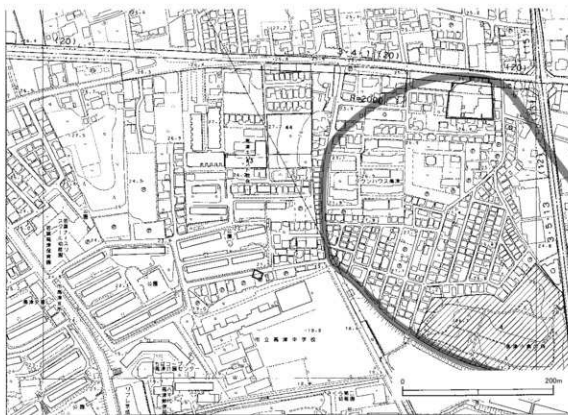
【所在地】 八千代市島田台字東桑橋台742-1 【調査原因】 移动通信用アンテナ設備新設

【調査期間】 令和3年3月11日～令和3年3月12日 【調査面積】 上層9㎡/16㎡

【調査種別】 確認調査 【遺構】 なし 【出土遺物】 なし

○調査所見

遺構、遺物は確認できなかった。



- 1 表土層
- 2 ソフトローム層



図7 高津梅屋敷遺跡1地点遺構配置図等

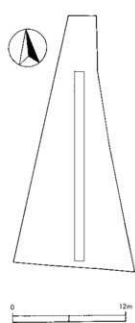


図8 北海道遺跡b地点遺構配置図等

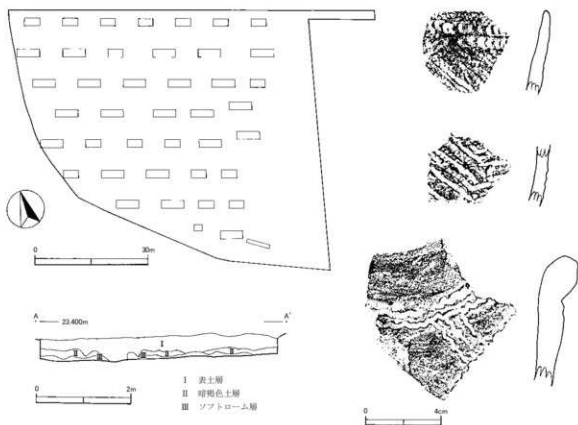
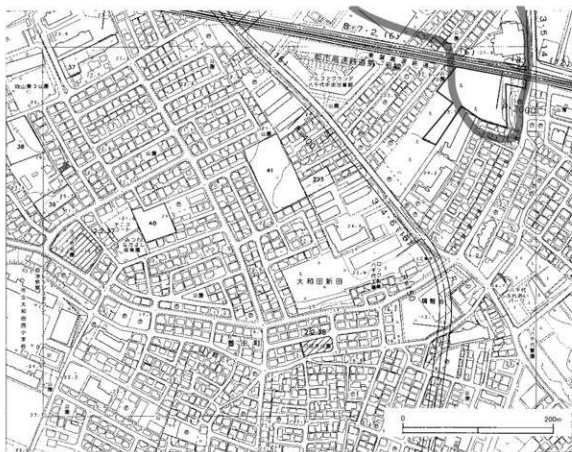


図9 向山遺跡j地点遺構配置図等

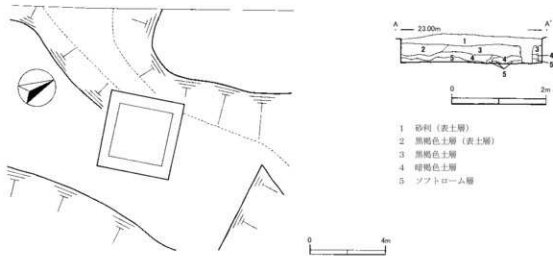
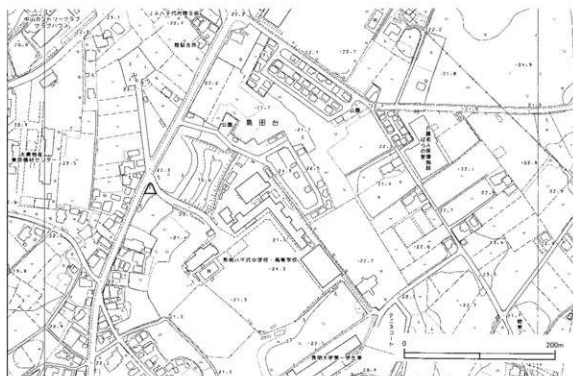


図10 作ヶ谷津庚申塚遺構配置図等

⑩ 小板橋遺跡 k 地点 (図11 図版6)

○調査概要

〔所在地〕 八千代市大和田170-5 〔調査原因〕 個人住宅

〔調査期間〕 令和3年3月15日～令和3年3月15日 〔調査面積〕 上層13㎡/148㎡

〔調査種別〕 確認調査 〔遺構〕 なし 〔出土遺物〕 なし

○調査所見

遺構、遺物は確認できなかった

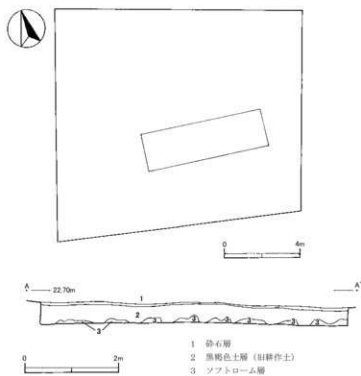


図11 小坂橋遺跡 k 地点遺構配置図等

⑪ 七百余所神社古墳 (図12・13・14・15・16 図版7・8)

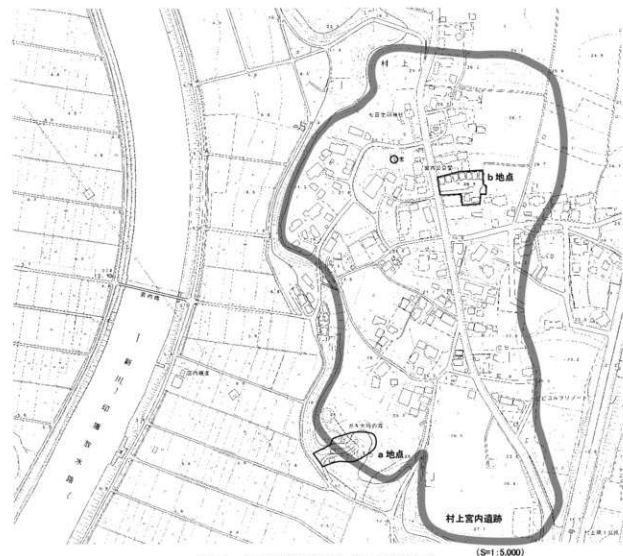


図12 七百余所神社古墳と今回の調査地点

調査に至る経緯

本古墳は、昭和53年に市文化財・史跡として、指定されている。直径20m、高さ3mの円墳として認識されていたが、正式な古墳規模・墳形等については判明していない。神社境内に良く保存されており、管理も行き届いている。市道を隔てた神社社殿に参拝される方々も多く、目に触れる機会が多いこともあり、古墳としての詳細が望まれるところであった。今回、本神社代表者・宮内区の方々の承諾を得られたことから、保存目的のための調査を実施する運びとなった。

調査の方法と経過

調査は、古墳としての周溝の所在、墳形について明確にすることを第一義とした。また調査時点で、墳丘測量図が整えられていなかったことから、測量図作成のための環境整備として、下草処理・障害物の撤去を行った。令和3年1月14日～18日水準点移動、19日～2月1日環境整備のため下草処理等、2月2日～9日墳丘測量と併せてトレンチ設定・掘り下げを行う。南側は民地のため、東・北・西の3方位において1～3T（トレンチ）を設定した。測量図作成段階で、西方位に伸びる地形の緩やかな高まりを確認し

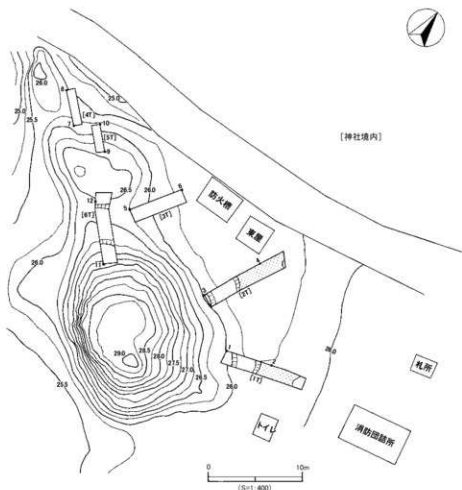


図13 七百余所神社古墳トレンチ配置図

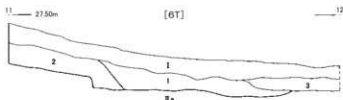
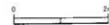
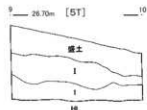
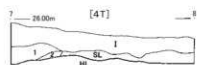
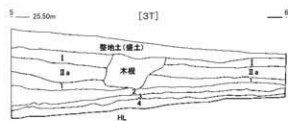
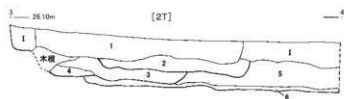
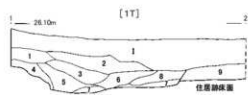
ため、帆立貝形ないし前方後円形を想定し、2月10日～18日に亘って4.5 Tを設定し掘り下げを行う。その結果、墳丘封土・周溝は検出されなかったため、改めて東側に6 Tを設定し2月19日～24日にかけて重機により掘り下げた。26日に各トレンチの埋戻しを完了し、調査を終了した。

調査の概要

結果として、遺構は円墳1基、古墳周溝3カ所、古墳時代前期竪穴建物跡2棟が検出された。円墳規模は、周溝の想定ラインから21m・高さ3mで、南東から南部分の墳丘が削られている状況であった。古墳周溝は、1 Tで幅3.6m・深さ0.45mで、東側で古墳時代前期竪穴建物跡覆土を切っていた。2 Tでは、幅3.35m・深さ0.4mで、1 Tと同様に北側で古墳時代前期竪穴建物跡覆土を切っていた。3 Tでは、中世以後の整地層（1～4層の黒褐色土）下が、ハードロームであった。周溝は削られたと考えられる。4 T・5 Tでも、ソフトローム下層からハードロームが確認面であり、削平が行われている。6 Tでは、幅4.1m・深さ0.4mで、II a層中の掘り込みで浅い。

遺物は縄文早期後半・前期中葉・中期前半・後期前半の各時期土器片、石皿・磨石・石鍾等の石器、古墳出現期～前期では、土師器が主体量を占める。その他平安時代須恵器甕片が1 Tから、表採資料では、中世後半期の内耳土鍋口縁・風炉胴部を採集した。

トレンチ土層説明



- 1T
- 1 表土 暗褐色土
 - 2 暗褐色土 ローム、黒色土混入。しまる、黒色土やや多い。
 - 3 暗褐色土 ローム、黒色土混入。軟質。1層より黒色土多い。
 - 4 黒褐色土 2mm大ローム粒混入。軟質。
 - 5 暗褐色土 ローム粒全体に含む。軟質。
 - 6 黒褐色土 4層類似。黒色土やや多い。
 - 7 暗褐色土 5層類似。ローム粒やや多い。
 - 8 暗褐色土 ローム、黒色土混入。しまる。
 - 9 黒褐色土 ローム粒含まず。やや軟質。
- ※ 1～8：古墳周溝覆土 ※9：古墳時代前期竪穴建物跡覆土

- 2T
- 1 表土 暗褐色土
 - 2 暗褐色土 暗褐色土
 - 3 暗褐色土 1層より黒色土含む。古墳周溝を切る。奈良・平安時代竪穴建物跡覆土か?
 - 4 黒褐色土 2mm大ローム粒含む。しまる。
 - 5 暗褐色土 ローム、黒色土混入。しまる。
 - 6 暗褐色土 2～3mm大ローム粒含む。3層よりしまる。
 - 7 暗褐色土 ローム土主に黒色土粒混入。しまる。
- ※ 3、4：古墳周溝覆土 ※5、6：古墳時代前期竪穴建物跡覆土

- 3T
- 1 表土 暗褐色土
 - 2 黒褐色土 腐食土
 - 3 黒褐色土 2～3mm大ローム粒含む。しまる。
 - 4 暗褐色土 1層類似。全体にローム粒混入。黒色土やや少ない。
 - 5 黒褐色土 1層類似。2層よりローム粒多い。
 - 6 暗褐色土 ロームブロックに暗褐色土少量混入。ややぼそぼそ。

- 4T
- 1 表土
 - 2 暗褐色土 3～5mm大ローム粒混入。しまる。
 - 3 暗褐色土 ローム、黒色土混入。しまる。

- 5T
- 1 表土～黒褐色土
 - 2 暗褐色土

- 6T
- 1 暗褐色土
 - 2 暗褐色土 2mmローム粒混入。やや軟質。
 - 3 暗褐色土 ローム土主に暗褐色土混入。
 - 4 暗褐色土
- ※ 1、2：古墳周溝覆土

図14 七百余所神社古墳土層断面図

まとめ

今回は、古墳墳形が円形であること、周溝規模・ラインの確定、古墳周溝が古墳時代前期竪穴建物跡覆土を切っていることから、築造時期の上限がおさえられたことが成果であった。また、古墳周辺は、縄文・奈良・平安時代の包蔵地として、村上宮内遺跡の範囲内であるが、近接地のb地点確認調査において、古墳時代前期の竪穴建物跡11棟が確認されている。同時期の集落跡としての広がり今回把握できたことも成果といえる。さらに、近隣住民からもう1基古墳が所在していたことを含め、境内に保存されている七

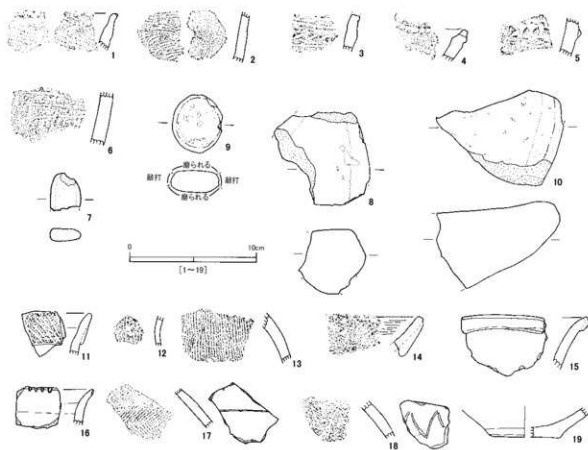


図15 七百余所神社古墳出土遺物

図物 №	時代	器種	部位	出土遺構	計測値 (cm)			重量 (g)	材質	色調	胎土	調整・文様等
					長さ	口径	底径					
1	縄文 早期後半	垂瓶文系	深鉢	口縁部	6T	-	-	-	貝	(内外)淡黄褐色	雲母白色粒	口唇部へうによるキヤミ、 縄文のみ
2	縄文 前期中期	垂瓶式	深鉢	胴部	5T	-	-	-	貝	(外)淡褐色(内)黒茶色	雲母セシ	縄文
3	縄文 中期前半	玉装玉台式	深鉢	胴部	3Tキヤブ	-	-	-	貝	(内外)淡茶褐色	赤色粒、赤黄長石	へうによるキヤミ、体管文 淡灰白縁、口唇部外面皮下 に竹管文
4	縄文 中期前半	阿玉台式	深鉢	口縁部	3Tキヤブ	-	-	-	貝	(内外)淡黄褐色	雲母白色粒	縁部にキヤミ
5	縄文 中期前半	阿玉台式	深鉢	胴部	6Tキヤブ	-	-	-	貝	(内外)茶褐色	雲母白色粒	縄文
6	縄文 後期前半	蟹ノ内式	深鉢	胴部	3Tキヤブ	-	-	-	貝	(内外)黄褐色	雲母白色粒	縄文
7	縄文	蟹目石鉢		5T	幅12.4	〔遺存長〕23.3	〔厚さ〕1.6	10.8				材質不明 右唇中央に 上皿下皿とも に繋がる
8	縄文	磨石		表採	幅17.5	〔遺存長〕7.5	〔厚さ〕5.2	263.5				安山岩 両面磨られる 磨 面細打
9	縄文	磨石・磁石		表採	4.6×4.0(cm)の円形		〔厚さ〕1.7	41.6				右唇不明
10	縄文 前期	垂瓶黄点系	深鉢	口縁部	6T	-	-	-	貝	(内外)淡黄褐色	雲母長石	黄白縁 (内)ナデ
11	縄文 前期	垂瓶黄点系	深鉢	胴部	5T	-	-	-	貝	(内外)淡黄褐色	雲母白色粒	へうによる縦区画文
12	古墳 前期	垂瓶黄点系	深鉢	胴部	5T	-	-	-	貝	(外)淡茶褐色(こげ付着) (内)淡褐色	白色粒、赤母、 赤色粒	(外)付加縄文
13	古墳 前期	垂瓶	胴部	6T	-	-	-	-	貝	(外)淡黄褐色 (内)淡茶褐色(赤影)	白色粒、赤母	黄白縁(外)縦目状縄文 (内)縦区へう磨き後赤影
14	古墳 前期	垂瓶	口縁部	2Tキヤブ	-	-	-	-	貝	(内外)淡黄褐色	雲母少量、白色粒	赤り返し口縁、口縁部(内) 縁ナデ及びナデ
15	古墳 前期	垂瓶	口縁部	2T底	-	-	-	-	貝	(内外)淡茶褐色	雲母白色粒	(口縁部)押圧によるキヤミ (口縁部)横ナデ (内)へう ナデ
16	古墳 前期	垂瓶	口縁部	2T底キヤブ	-	-	-	-	貝	(外)上部赤影、下部淡茶褐色 (内)淡茶褐色	雲母赤色粒	(外)淡灰縄文、文様一部磨 き削して赤影 (内)ナデ (内)淡茶褐色、文様区画の縦 状文、S字状、前、縄文、 文、内)てい、い、ナデ
17	古墳 前期	垂瓶	胴部	2T底キヤブ	-	-	-	-	貝	(外)赤褐色(赤影一部) (内)淡茶褐色	雲母白色粒	(外)へうナデ (内)ナデ 二枚境による縦区画文
18	古墳 前期	垂瓶	胴部	2T底キヤブ	-	-	-	-	貝	(外)淡茶褐色	雲母白色粒	
19	古墳 前期	小型垂瓶	底部(1/3)	2T底キヤブ	〔遺存高〕24		〔底元〕5.6		貝	(内外)淡茶褐色	雲母白色粒	

百余所神社塚についても古墳群としての可能性が考慮される。そして最後に、中世表探資料や地形改変の状況から、正覚院館跡との関連が想起される。館跡とは台地を異にする分、防衛上の造作があったのではないだろうか。

参考文献

八千代市教育委員会「千葉県八千代市 市内遺跡発掘調査報告書」平成13年度 2002.3

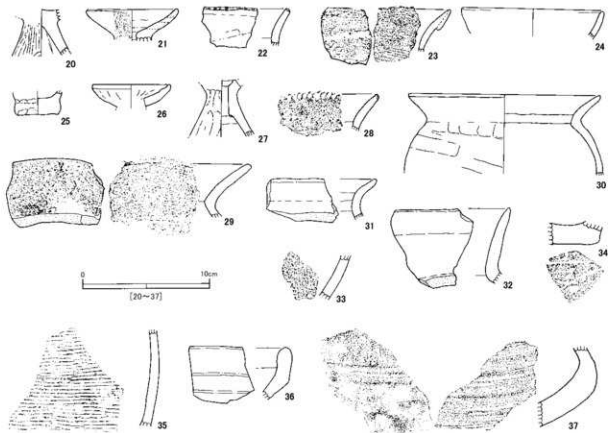


図16 七百余所神社古墳出土遺物(2)

発掘 №	時代	器種	部位	出土 遺物	計測値(cm)			重さ(g)	素材	色調	胎土	調整・文様等
					器高	口径	底径					
20	古墳 前期	土師器 高杯	脚部全周	5T	(遺存高)3.7	-	-		具(外)赤褐色(赤彩) (内)淡茶褐色	雲母,白色粘	(環部内面)ヘラ磨き(脚部外)縦穴 ヘラ磨き(脚部内)ヘラナデ(脚 部)穿孔32-所	
21	古墳 前期	土師器 器台	受部(1.2割)	5T	(遺存高)2.3	(受部径)7.0	(穿)径)0.7		具(内外)橙褐色	白色粘,雲母	(受部外周)クシ目調整(受部内面) ナデ	
22	古墳 前期	土師器 甕	口縁部	3T	-	-	-		具(内外)茶褐色	白色粘,雲母	(口縁部)キザミ(内外)ヘラナデ	
23	古墳 前期	土師器 缶	口縁部	3T	-	-	-		具(内外)橙褐色	白色粘,雲母	複合口縁(外)ハケナデ後磨り消す (内)筒体部 磨き向ハケナデ	
24	古墳 前期	土師器 碗	口縁部(1.5)	3T	(遺存高)2.3	10.0	-		具(内外)橙褐色	白色粘,雲母	(内外)ていねいなナデ	
25	古墳 前期	土師器 手づくね	底部	3T	(遺存高)1.8	-	3.4		具(内外)橙褐色(内)原褐色	白色粘,雲母	(内外)ヘラ, 磨き上るナデ	
26	古墳 前期	土師器 器台	受1部	3T	(遺存高)1.8	6.2	-		具(内外)淡橙褐色	白色粘,雲母	(内外)ていねいなナデ	
27	古墳 前期	土師器 器台	脚部全周	3T	(遺存高)4.3	(孔径)1.0	-		具(内外)橙褐色	白色粘,雲母	(脚部)外縦穴ナデ	
28	古墳 前期	土師器 甕	口縁部片	6T	-	-	-		具(内外)暗褐色	雲母,白色粘	(口縁部)ヘラ状工具によるキザミ (外)ナデ(内)磨ナデ	
29	古墳 前期	土師器 甕	口縁部片	6T	-	-	-		具(内外)茶褐色~暗褐色(一部 焼戻)	白色粘	(内外)ハケ目調整	
30	古墳 前期	土師器 小笠缶	口縁~腹部 (1/4)	6T	(遺存高)6.2	15.0	-		具(内外)橙褐色一部黒戻	白色粘,雲母	(口縁部)横ナデ(腹部内面)ヘラナ デ(腹部内面)ヘラナデ	
31	古墳 前期	土師器 甕	口縁部	6T	-	-	-		具(内外)赤褐色	雲母,白色粘	(内外)磨ナデ,ヘラナデ	
32	古墳 前期	土師器 缶	口縁部	6T	-	-	-		具(内外)橙褐色	雲母,白色粘	(内外)磨ナデ,ヘラナデ	
33	古墳 前期	土師器 甕	胴部片	6T	-	-	-		具(内外)赤褐色	雲母,白色粘	(内外)ていねいなナデ	
34	古墳 前期	土師器 甕	胴部片	6T	-	-	-		具(内外)赤褐色(内)橙褐色	雲母,白色粘	磨かハケ目 白色粘,雲母	
35	平安	銅器 甕	底部	6T	-	-	-		具(外)茶褐色(内)橙褐色	白色粘,雲母	(外)木葉裏	
36	平安	銅器 甕	胴部	1T	-	-	-		具(内外)黄褐色	長石	(外)横位吹き目文(内)ロクロナ デ	
37	中世	内耳土師	口縁部	表採	-	-	-		具(内外)暗褐色	白色粘,雲母, 鉄白	(内外)ロクロナ デ(外下段)ヘラナ デ	
37	中世	風甲	胴部	表採	-	-	-		具(内外)原褐色	雲母,白色粘	(外下段)ヘラナデ(内)ロクロナ デ	



麦丸遺跡 k 地点セクション



麦丸遺跡 k 地点完掘全景



麦丸遺跡 k 地点土坑完掘状況



麦丸遺跡 k 地点出土遺物



殿内遺跡 i 地点トレンチ掘削状況



殿内遺跡 i 地点セクション



殿内遺跡 i 地点トレンチ完掘状況



殿内遺跡 i 地点完掘全景

図版2



殿内遺跡 j 地点調査前



殿内遺跡 j 地点トレンチ掘削状況



殿内遺跡 j 地点遺構検出状況



殿内遺跡 j 地点セクション



殿内遺跡 j 地点トレンチ完掘状況



殿内遺跡 j 地点出土遺物 1



殿内遺跡 j 地点出土遺物 2



内込遺跡 f 地点調査前



内込遺跡 f 地点トレンチ掘削状況



内込遺跡 f 地点セクション



内込遺跡 f 地点完掘・遺構検出状況



内野遺跡 c 地点調査前



内野遺跡 c 地点トレンチ掘削状況



内野遺跡 c 地点トレンチ掘削状況



内野遺跡 c 地点トレンチ完掘状況

図版 4



高津梅屋敷遺跡 f 地点トレンチ完掘状況



高津梅屋敷遺跡 f 地点セクション



高津梅屋敷遺跡 f 地点トレンチ完掘全景



高津梅屋敷遺跡 f 地点出土遺物



北海道遺跡 b 地点発掘調査前



北海道遺跡 b 地点トレンチ掘削状況



北海道遺跡 b 地点セクション



北海道遺跡 b 地点トレンチ完掘状況



向山遺跡 j 地点トレンチ掘削状況



向山遺跡 j 地点セクション



向山遺跡 j 地点トレンチ完掘全景



向山遺跡 j 地点出土遺物



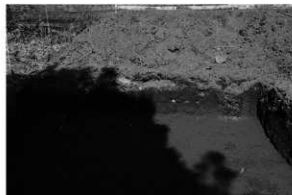
作ヶ谷津庚申塚発掘調査前



作ヶ谷津庚申塚トレンチ掘削状況



作ヶ谷津庚申塚トレンチ完掘状況



作ヶ谷津庚申塚セクション

図版6



小板橋遺跡k地点発掘調査前



小板橋遺跡k地点トレンチ掘削状況



小板橋遺跡k地点セクション



小板橋遺跡k地点トレンチ完掘状況



七百余所神社古墳発掘調査前



七百余所神社古墳発掘調査前



七百余所神社古墳トレンチ掘削状況



七百余所神社古墳1T完掘状況



七百余所神社古墳トレンチ完掘状況



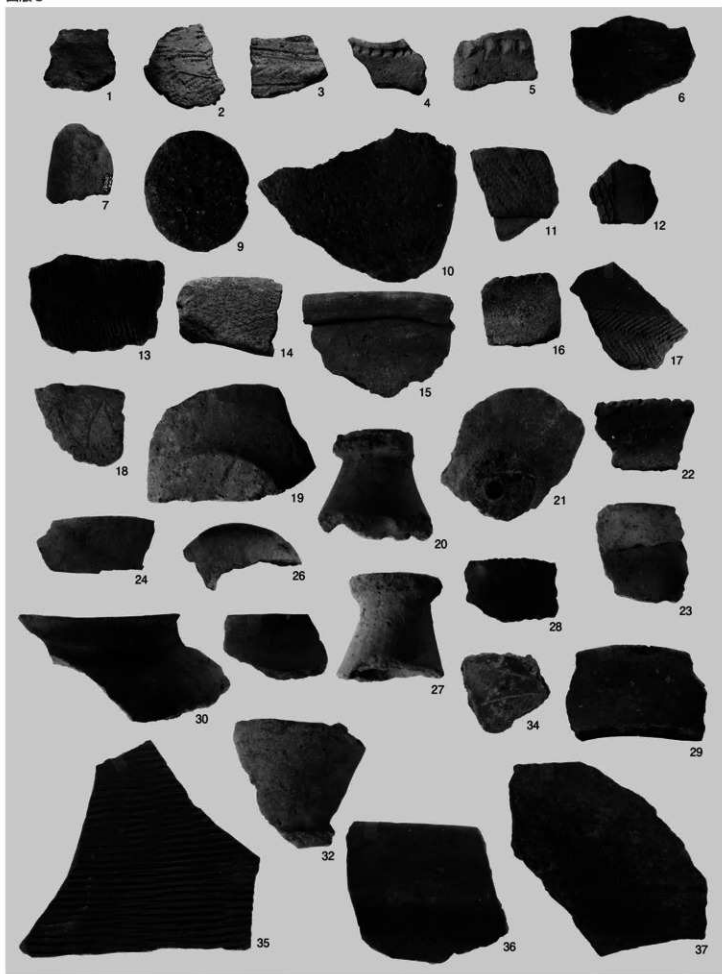
七百余所神社古墳2T完掘状況



七百余所神社古墳3T完掘状況



七百余所神社古墳6T完掘状況



報告書抄録

ふりがな	ちばげんやちよししないいせきとうはっくつちょうさほうくしょ れいわさんねんど							
書名	千葉県八千代市 市内道路等発掘調査報告書 令和3年度							
副書名	麦丸道路k地点、殿内道路i地点、殿内道路j地点、内込道路f地点、内野道路c地点、高津梅屋敷道路f地点、北海道道路b地点、向山道路j地点、作ヶ谷津庚申塚、小板橋道路k地点、七百余所神社古墳a地点							
編集者名	宮澤久史 向後善紀 森竜哉							
編集機関	八千代市教育委員会							
所在地	〒276-0045 千葉県八千代市大和田138-2 Tel047-483-1151(代表)・047-481-0304(直通)							
発行年月日	西暦2022(令和4)年3月30日							
ふりがな 所収道路	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積(m ²) 掘削/対象	調査原因
		市町村	道路 番号					
ちばぎょいせき まてな 麦丸道路k地点	ちばぎょいせき まてな 大和田新田字麦丸台647-4	12221	151	35度 74分 12秒	140度 10分 29秒	20200415～20200423	上層 139,576/1,427	宅地造成
ちばぎょいせき まてな 殿内道路i地点	ちばぎょいせき まてな 村上字大宮作1608-1,1609-2	12221	203	35度 72分 90秒	140度 11分 81秒	20200602～20200609	上層 112/1,213.35	店舗建設
ちばぎょいせき まてな 殿内道路j地点	ちばぎょいせき 村上1580-1,1580-3	12221	203	35度 72分 88秒	140度 11分 70秒	20201116～20201125	上層 204/2,049.9	店舗建設
ちばぎょいせき まてな 内込道路f地点	ちばぎょいせき 八千代台北17-1615-64	12221	246	35度 71分 40秒	140度 08分 24秒	20200813～20200813	上層 9,95.56	建売住宅
ちばぎょいせき まてな 内野道路c地点	ちばぎょいせき 吉橋字八幡前1167-1, 1167-14,1171-2	12221	138	35度 74分 01秒	140度 08分 31秒	20200819～20200825	上層 368/3,490	宅地造成
ちばぎょいせき まてな 高津梅屋敷道路f地点	ちばぎょいせき まてな 大和田新田字新木戸前 103-5,103-7,103-18,103- 19,103-20,103-36,103-64	12221	166	35度 72分 40秒	140度 08分 24秒	20201012～20201023	上層 284/3,015.71	スポーツ 練習場建設
ちばぎょいせき まてな 北海道道路b地点	ちばぎょいせき 萱田字南海道1091-1	12221	183	35度 73分 28秒	140度 10分 72秒	20201020～20201020	上層 20/196	集合住宅
ちばぎょいせき まてな 向山道路j地点	ちばぎょいせき 大和田新田510-1	12221	173	35度 72分 86秒	140度 09分 84秒	20201204～20201218	上層 422/4,800	宅地造成
ちばぎょいせき まてな 作ヶ谷津庚申塚	ちばぎょいせき 島田台字東条橋台742-1	12221	63	35度 75分 27秒	140度 08分 48秒	20210311～20210312	上層 9/16	移動通信 用アンテナ 設備新設
ちばぎょいせき まてな 小板橋道路k地点	ちばぎょいせき 大和田170-5	12221	245	35度 71分 67秒	140度 10分 86秒	20210315～20210315	上層 13/148	個人住宅
ちばぎょいせき まてな 七百余所神社古墳 a地点	ちばぎょいせき 村上字宮内433	12221	190	35度 73分 87秒	140度 11分 75秒	20210114～20210226	上層 56.5/750	保存目的

遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
麦丸遺跡 k 地点	包蔵地	縄文 奈良・平安	縄文時代土坑 1 基	縄文土器	
殿内遺跡 i 地点	集落跡	縄文 奈良・平安	なし	なし	
殿内遺跡 j 地点	集落跡	縄文 奈良・平安	古墳時代竪穴建物跡3棟 奈良・平安時代竪穴建物跡11棟 奈良・平安時代土坑 4 基、溝状遺構 1 条 中近世土坑 1 基	縄文土器 古墳時代土師器 奈良・平安時代土師器、須恵器 中近世陶磁器	
内込遺跡 f 地点	包蔵地	古墳 奈良・平安	古墳時代後期竪穴建物跡 1 棟	なし	
内野遺跡 c 地点	包蔵地	奈良・平安	なし	なし	
高津梅屋敷遺跡 f 地点	包蔵地	縄文 奈良・平安	なし	縄文土器 奈良・平安時代土師器	
北海道遺跡 b 地点	包蔵地 集落跡	旧石器 縄文 古墳 奈良・平安	なし	なし	
向山遺跡 j 地点	包蔵地	旧石器 縄文 奈良・平安	なし	縄文土器 奈良・平安時代土師器 中近世土器	
作ヶ谷津度申塚	塚	中世近世	なし	なし	
小板橋遺跡 k 地点	集落跡	古墳	なし	なし	
七百余所神社古墳 a 地点	古墳	古墳	古墳時代竪穴建物跡 2 棟、円墳 1 基、 周溝 3 カ所	縄文土器、石器 弥生土器 古墳時代土師器 奈良平安時代土師器、須恵器	

要 約	1 麦丸遺跡 k 地点	縄文時代土坑 1 基が検出された。遺物は縄文土器が出土した。
	2 殿内遺跡 i 地点	遺構・遺物の検出はなかった。
	3 殿内遺跡 j 地点	古墳時代竪穴建物跡 3 棟、奈良・平安時代竪穴建物跡 11 棟、奈良・平安時代土坑 4 基、溝状遺構 1 条、中・近世土坑 1 基が検出された。遺物は縄文土器、古墳時代土師器、奈良・平安時代土師器、須恵器、中・近世陶磁器が出土した。
	4 内込遺跡 f 地点	古墳時代後期竪穴建物跡 1 棟が検出された。遺物の検出はなかった。
	5 内野遺跡 c 地点	遺構・遺物の検出はなかった。
	6 高津梅屋敷遺跡 f 地点	遺構検出はなかった。遺物は縄文土器、奈良・平安時代土師器が出土した。
	7 北海道遺跡 b 地点	遺構・遺物の検出はなかった。
	8 向山遺跡 j 地点	遺構検出はなかった。遺物は縄文土器、奈良・平安時代土師器、中近世土器が出土した。
	9 作ヶ谷津庚申塚	遺構・遺物の検出はなかった。
	10 小坂橋遺跡 k 地点	遺構・遺物の検出はなかった。
	11 七百余所神社古墳 a 地点	古墳時代竪穴建物跡 2 棟、円墳 1 基、周溝 3 カ所が検出された。遺物は縄文土器、石器、弥生土器、古墳時代土師器、奈良平安時代土師器、須恵器が検出された。

千葉県八千代市

市内遺跡発掘調査報告書 令和 3 年度

令和 4 年 3 月 30 日発行

発 行 八千代市教育委員会 文化・スポーツ課
千葉県八千代市大和田 138-2
TEL 047-481-0304

印 刷 金子印刷企画
千葉県八千代市萱田 410-1

